

事務局／旭川市金星町1丁目1-52 道北口腔保健センター内
☎(0166)22-2361

<http://www.kyoku-shi.com>

健康格差の是正を目指すこれからの歯科保健 第32回 むし歯予防全国大会 in 大分

平成20年11月22日午後2時から4時間、第32回 むし歯予防全国大会が、大分市コンパルホールにおいて、日本むし歯予防フッ素推進会議主催、大分県歯科医師会、大分県共催、日本歯科医師会・日本学校歯科医師会などの後援で開催されました。

第一部として日本大学松戸歯学部小林清吾教授らによる「学校歯科保健におけるフッ化物洗口の有用性」の基調講演があり、「世界の他の先進諸国では、フッ化物応用の普及が進み、日本よりもむし歯は劇的に減少しています。しかし、わが国は依然として、フッ化物普及の遅れがあり、フッ化物応用の普及と推進が最優先課題であり、地域・国・歯科関係に対して、フッ化物応用の推進が非常に大切です」と述べられました。



第二部としてシンポジウムがあり、シンポジストの4人の中の1人の京都市教育委員会体育健康教育室・富田智晴保健課長より、8020運動達成のためのむし歯予防対策として世界で普及しているフッ化物応用が必要であり、その一環として京都市の全小学校（179校）でこの3月よりフッ化物洗口が開始されたこと、何故京都市でフッ化物洗口を実施したのかの紹介がありました。実施に際して、大きな力となったのは門川大作・京都市長（前京都府教育長）の力が大きかったとも話されていました。

●京都市の全小学校（179校）でこの3月よりフッ化物洗口が開始

第二部としてシンポジウムがあり、シンポジストの4人の中の1人の京都市教育委員会体育健康教育室・富田智晴保健課長より、8020運動達成のためのむし歯予防対策として世界で普及しているフッ化物応用が必要であり、その一環として京都市の全小学校（179校）でこの3月よりフッ化物洗口が開始されたこと、何故京都市でフッ化物洗口を実施したのかの紹介がありました。実施に際して、大きな力となったのは門川大作・京都市長（前京都府教育長）の力が大きかったとも話されていました。

●子ども達の健康にとって良いことは可及的すみやかに実行していく

京都市では、昭和43年より学童のむし歯治療の公費負担を行っていますが治療費の負担が大きいので、平成5年よりフッ化物洗口を取り上げたが、一向に実施校が増えなかった。（むし歯予防効果は出ているのに。）そこで、平成17年から3年かけて市内全小学校での実施を計画し、今日に至った。課長の話の中で、「子ども達の健康にとって良いことは可及的すみやかに実行していく事。議論ばかりしてはだめだ。」「ボトムアップも必要ですが、ある時はトップダウンも必要。」という言葉が印象に残りました。私の感想ですが、とにかくすばらしい市長と行政の担当者、すばらしい県歯会長と人間の組み合わせの結果、子供たちの健康のために京都市の全小学校でのフッ化物洗口が実施に至ったと思います。まだまだ報告したい事がありますが、報告はこれくらいにします。